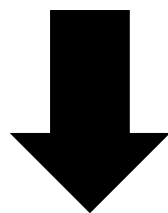
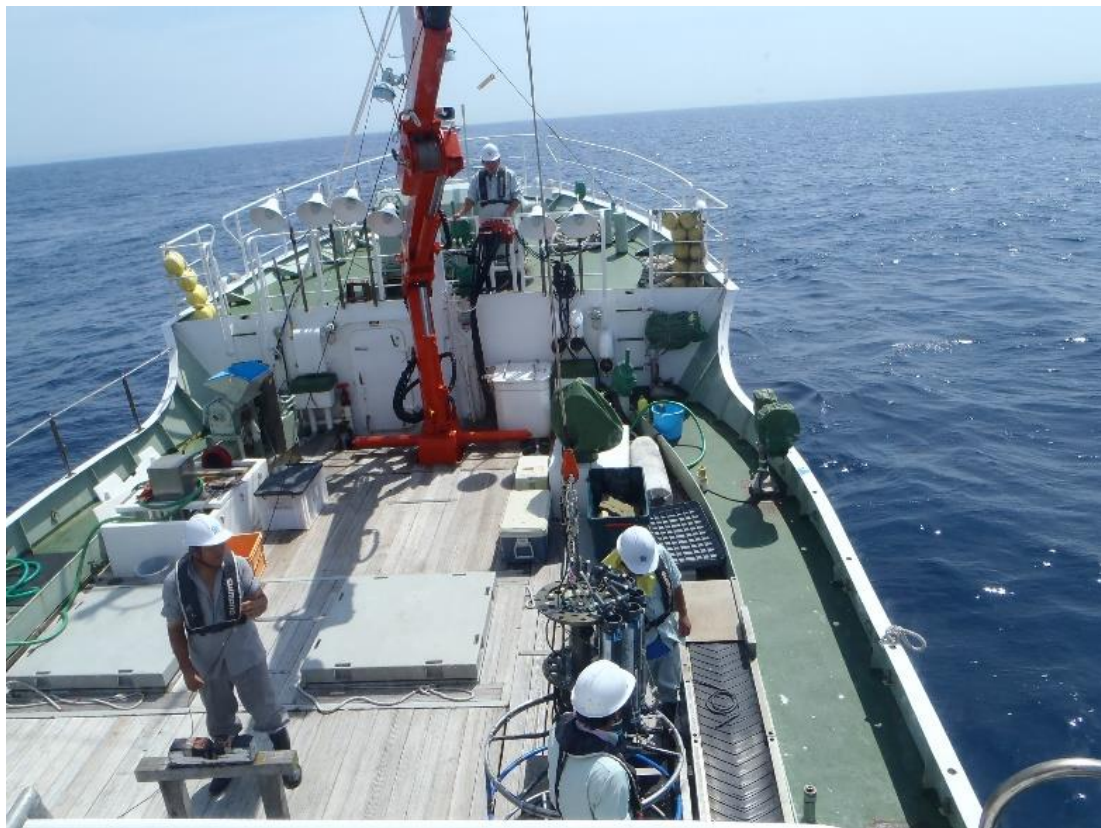


江の島丸、成人を迎えリニューアル！！

漁業調査指導船 江の島丸（105トン）は、平成17年（2005年）に進水し成人（18年目）を迎え、令和5年9月より2か月の間、船舶安全法による中間検査の点検整備と合わせて、リニューアルのための大規模な修繕を行いました。内装では女性区画の新設やトイレも新しくし、船員の住環境の改善も図っています。今回はその中でも、実際に調査を行っている作業区域について触れていきます。

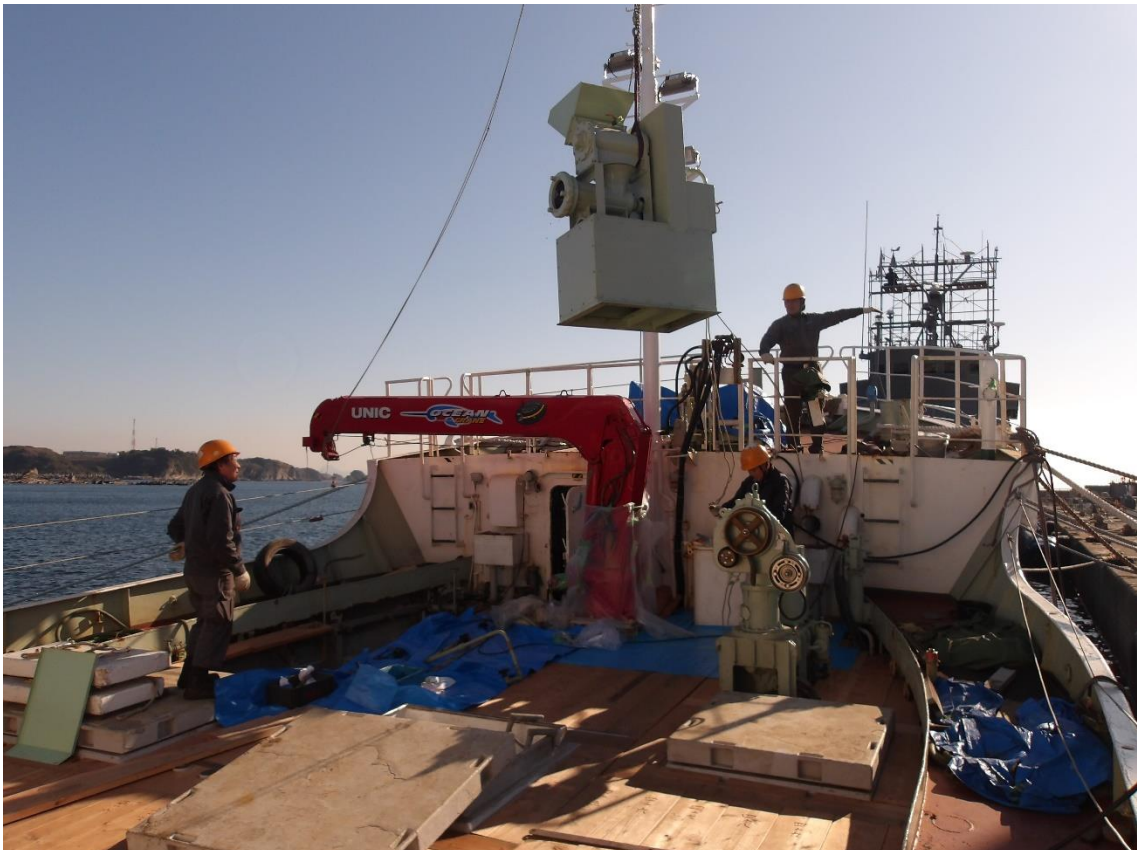
下の写真は漁労作業や海洋観測調査を行う中枢である作業甲板です。こちらはドックに入る以前のもので、CTD観測調査を行っている風景なのですが、船員が立っている木甲板が劣化していたので今回のドックで交換をしました。





見違えるほど綺麗になっているのがわかると思います。足場となる板が腐れば重大な事故につながる事となります。

次の写真はこちらです。





こちらは、神奈川県を代表する魚ことサバを漁獲する際に使用する、こませすり機（サバを集めるために使用するすり餌を作る機械）となっています。こちらの機械も 20 年近く経ち、老朽化していましたので、新しいものに交換しました。

次に船尾甲板の写真となっています。これらも木の割れ目が多く出ていました。原因として考えられるのは木甲板下からの発錆によるものです。場所によっては錆が浮かんでいる部分もあったので、交換しました。



そして、木甲板を交換するために、剥がした際の写真が下の写真となります。



長年使用してきたこともあり、錆だらけとなっていました。

これらも錆打ちをし、新しい木甲板へと変わりました。

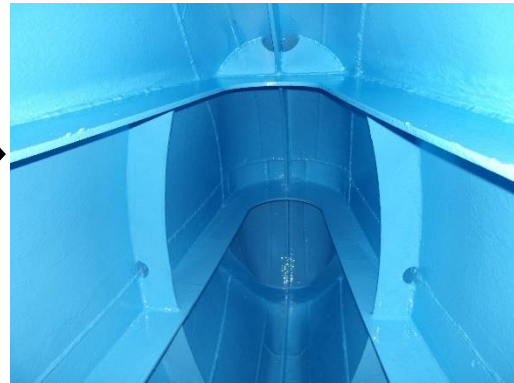




これらの他にも、観測機器の土台や船橋の扉など悪くなっていたところを今回の工事で綺麗にすることや、また不具合のあった箇所を直すことが出来ました。

最後はあまり見られることのない船のタンク内です。

普段使用する清水タンクも検査ドックのたびに船員により手入れをしているのですが、どうしてもタンク内には錆が浮いてきます。それらの錆を綺麗に落とし塗装工事をしてもらいました。下の写真は工事の前後となっています。一目でわかるほど本当にきれいになりました。



清水タンクの清掃は船員の健康にも係わってくる非常に重要なもので、本当に有難い工事です。

船舶というのは当然ながら塩害による被害を大きく受け、普段から乗組員による錆打ちや塗装をしているのですが、どうしても手を付けられない所が多くあり、18年という長い年月が経ってしまうと、そういった箇所や予期せぬところからの発錆。そして、それが原因と

なり、錆が全体に広がることや穴が空くこともあります。

新船を建造してしまえば老朽化はすべて解決できますが、古い船の耐久性を考えつつ修繕しながら大切に使うという考えもあります。今回は予算軽減、作業効率、居住環境などを考慮して後者を選択しました。

今後も江の島丸は、海洋調査や水産資源量調査、また軽石の漂流のような突発的な事態にも迅速に対応していくことで、神奈川県の水産業の一端をこれからも担っていきます。

工事の詳しい内容については、かなさんの畑Instagramにも掲載していますので、興味のある方はご覧ください。

<https://www.instagram.com/kanasan.no.hatake/>